

高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施事業について

要覽集事

課題と対策

- 課題① 健康状態不明者の存在、フレイル等リスクのある者の未把握
課題② 脳血管・心疾患の医療費増大、生活習慣病起因の透析割合の増加
課題③ 筋・骨格の医療費割合の増加
課題④ 要介護認定者割合の増加
課題⑤ 後期高齢者健診受診率が低い

●令和7年度の取組みについて

注册

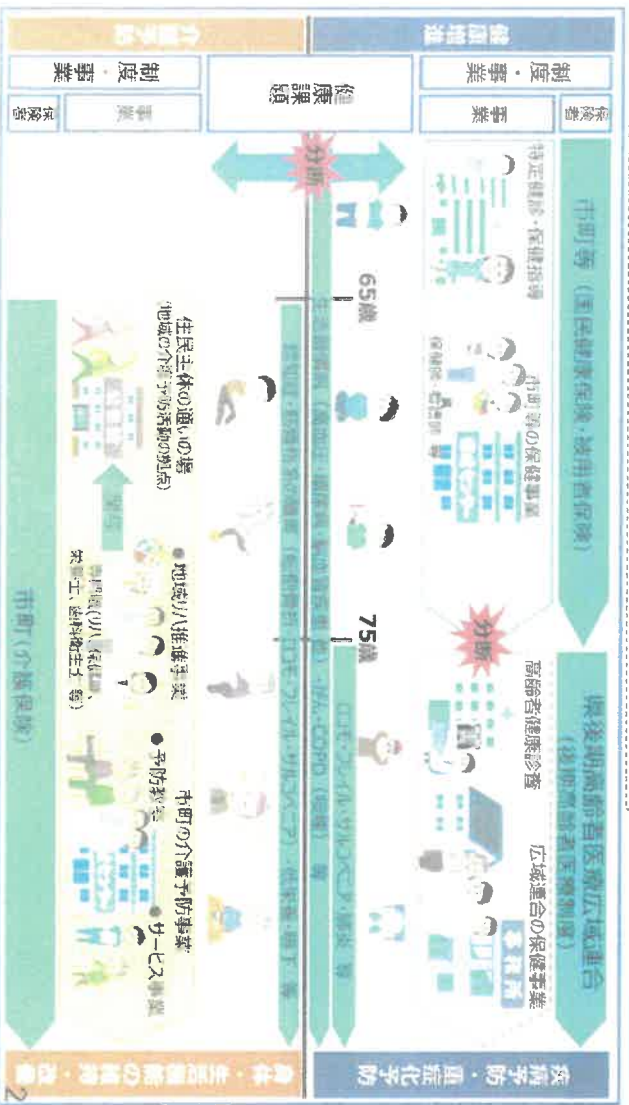
■制度的な課題

・保険制度には医療保険(国民健康保険、後期高齢者医療制度等)と介護保険があるため、事業の実施主体が制度及び年齢に応じて異なる。各事業の進捗が取れていない。

・後期高齢者の保健事業は、県全体を対象に広域連合が実施するため、取組が薄い。

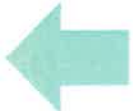
制度改正

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施



・高齢者に対して国保・被保険者保険と高齢者広域連合は独立した保健事業を展開

・ 介護保険法による生活機能の維持を改善をはかる



生活習慣病対策・フレイル対策としての保健事業と介護予防を一体的に実施が必要

課題と対策

項目	状況	内容
一人あたり医療費（年間）	外来：345,535円 入院：298,752円	・受診率と一人あたり医療費の相関は県内平均と比べ受診率は高く、1人あたり医療費は約2,000円低い。
外来医療費（大分類別医療費上位3項目）	1位 循環器系の疾患 2位 新生物(腫瘍) 3位 尿路性器系の疾患	・生活習慣病等1人あたり医療費は、健診受診者1,585円、健診未受診者24,868円で16倍の差があり、健診受診者は県より約1,100円低く、未受診者は約1,200円高い。
医療 入院医療費（大分類別医療費上位3項目）	1位 循環器系の疾患 2位 筋骨格系及び結合組織の疾患 3位 損傷、中毒及びその他の外因の影響	・医療費割合は筋・骨格が26.5%で県よりやや低く、全体に占める割合が一番高い。
人工透析患者率	1.1%	・慢性腎臓病（透析有）の医療費割合は13.0%で県より1.6%高い。

※各数値は、R6年度実施計画作成時にKDBシステムから出力したものの、平均自立期間は、静岡県県発表（令和6年9月）に置き換えている。

課題と対策

項目	状況	内容
要介護認定率	16.3%	・介護認定率は16.3%で県17.5%より下回っている。
居宅一人あたり介護給付費	12,560円	・1件当たり介護給付費は県より高く、居宅給付費は県より高いが施設給付費は低い。
介護 通いの場の参加率	17%	・介護の有病状況は心臓病が62.3%と割合が高く、次いで筋・骨疾患が54.8%で、いずれも県を上回っている。

その他

- ・当市の人口ピジョンでは、2015年から2030年にかけて75歳以上が10,531人増加し、前期高齢者から後期高齢者への移行が予測される。
- ・新規透析者の導入原因疾患は、糖尿病・硬化症の割合は83.0%で、そのうち70～80歳代の割合は62.3%と高い。

※各数値は、R6年度実施計画作成時にKDBシステムから出力したものの、平均自立期間は、静岡県県発表（令和6年9月）に置き換えている。

令和6年度 課題と対策

課題		対策	
	高齢者健診質問票 ・未回答者の実態把握 ・回答者のうち要支援者の把握	・健診・医療・介護なしへの質問票の送付 ・社会的フレイルの確認 ・回答者への結果及び健診受診勧奨通知	
①	健康状態不明者の存在 フレイル等リスクのある者の未把握	・治療中断者への啓発 ・医師・薬剤師等と連携した保健指導 ・生活習慣病の重症化予防	・高血圧・高血糖・脂質異常の重症受診勧奨値かつ薬剤 処方なしへの保健指導 ・治療中断者へのリーフレット送付、健康相談 ・調剤薬局との健診結果相談体制の相談
②	脳血管・心疾患の医療費の増大 生活習慣病起因の透析割合の増加	・フレイルへの啓発 （運動・栄養・口の健康、社会参加）	・いきいき百歳体操専門職派遣（栄養士・歯科衛生士・リハ ビリ専門職） ・介護予防手帳の普及 ・低栄養DVDの貸出
③	筋・骨格の医療費割合の増加	・原因疾患への啓発及び重症化予防 （筋・骨疾患、心臓病）	・低栄養対象者への保健指導 ・健診受診者への資料提供 （フレイル予防） ・自立支援セミナー共創プログラム
④	要介護認定者割合の増加	・再動奨励通知（生活習慣病服薬なしの者） ・医師会等への情報提供	・健診説明資料の追加 ・受診勧奨通知（課題①のうち高齢者質問票回答者） ・医師会等への前年度事業報告
⑤	後期高齢者健診受診率が低い		

課題① 健康状態不明者の存在 フレイル等リスクのある者の未把握

ア.健診未受診・医療未受診・介護認定無し（389人）

介入方法

後期高齢者質問票の送付
訪問等による健康状態の把握

- ・回答なし・・・訪問等による健康状態の把握
- ・回答あり（社会参加なし）・・・訪問等による健康状態の把握
- ・回答あり（社会参加あり）・・・質問票の結果及び健診受診勧奨のリーフレットを送付

後期高齢者質問票と回答いただいた方に対する結果

質問票の★のところにチェックがいった場合は、フレイルの可能性があると考えられます。

[illegible]

課題② 脳血管・心疾患の医療費増大 生活習慣病起因の透析割合の増加

- ア.健診受診・医療未受診のうち、受診勧奨値あり（36人）
イ.健診受診・医療受診のうち、血圧、糖、LDLのいずれかが受診勧奨値ありで重症度の高いレベルの者（116人）（うち勧奨値が重複する者は6人）
ウ.健診未受診（前年度）・糖尿病や高血圧の治療中断者（192人）

介入方法

- ア・イ：個別訪問・来所・電話による保健指導
ウ：医療受診を勧奨するリーフレット及び健康相談のお知らせを送付

介入結果

ア・イ：個別訪問・来所・電話による保健指導（152人）

- ①訪問・来所・電話による保健指導（131人）
②面会できず（10人）・・・不在：6人 拒否：4人
※不在者には連絡票をポストインし、市へ連絡を依頼
③対象外（令和6年度健診結果改善が認められた方）11人

ウ：医療受診を勧奨するリーフレット及び健康相談のお知らせを送付
（192人）

課題③ 筋・骨格の医療費割合の増加

④ 要介護認定者割合の増加

ア：いきいき百歳体操実施団体への健康教育 (112団体)

イ：体重が前年度健診時から－3kg以上でBMI20以下、
かつ質問票⑥に該当 (17人)

ウ：健診未受診（前年度）・BMI20以下、かつ質問票⑥に該当 (20人)

※質問票⑥：「過去6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか？」

介入方法

ア：体操開始後3～5年目の団体へ専門職（栄養士・歯科衛生士・理学療法士）を派遣、保健師の年1回フォロー

イ・ウ：個別訪問及び来所、電話による保健指導（低栄養）
フレイル予防リーフレットの配付

介入結果

ア：体操開始後3～5年目の団体への専門職派遣

栄養士：8団体 歯科衛生士：8団体 リハビリ専門職：13団体

イ・ウ：個別訪問・来所・電話による保健指導 (37人)

①訪問・来所・電話による保健指導 (33人)

②面会できず (2人)・・・不在：1人 拒否：1人

※不在者には連絡票をポストインし、市へ連絡を依頼

③対象外（R6年度健診結果で体重増加あり） (2人)

課題⑤ 後期高齢者健診受診率が低い

- ・前年度未受診者への啓発
- ・医師会、薬剤師会への協力依頼
- ・市業務での受診啓発

介入方法

- ・高齢者質問票を送付し、回答いただいた方に、質問票の集計結果及び健診の受診を勧奨するリーフレットを送付
- ・後期高齢者健診を実施している医療機関向けに、後期高齢者質問票の説明資料等を補足
- ・後期高齢者保険料通知時に健康診断の案内を同封

令和7年度の取組みについて

課題① 健康状態不明者の存在、フレイル等リスクのある者の未把握

- ・後期高齢者質問票の送付、未回答者への訪問、回答者のうち社会参加がない方への訪問

課題② 脳血管・心疾患の医療費の増大、生活習慣病起因の透析割合の増加

- ・重症度の高いレベルの方への訪問指導
- ・健診未受診（前年度）かつ治療中断者に対する支援方法の検討、実施

課題③④ 筋・骨格の医療費割合の増加、要介護認定者割合の増加

- ・通いの場等への専門職派遣
- ・個別訪問（低栄養）
- ・フレイル予防リーフレット同封

課題⑤ 後期高齢者健診受診率が低い

- ・質問票回答者への受診勧奨
- ・健診実施医療機関に向けた補足資料の送付
- ・後期高齢者保険料通知時に健康診断の案内を同封
- ・集団健診の試行